

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら緩やかに上値を追う展開か

[8月19日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月12日～8月16日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	146.73	149.39(15)	146.08(14)	148.98	+2.37
ユーロ・ドル	1.0914	1.1047(14)	1.0910(12)	1.0982	+0.0065
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	38,062.67	+3037.67	日本10年債利回り	0.878	+0.025
ダウ平均株価	40,563.06	+1065.52	米10年債利回り	3.913	-0.027
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 19日 英8月ライトムーブ住宅価格
日本6月機械受注
米7月景気先行指数
- 20日 NZ7月貿易収支
中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート 1年 5年)
独7月生産者物価指数
ユーロ圏6月経常収支、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値
カナダ7月消費者物価指数
- 21日 日本7月貿易収支
カナダ7月鉱工業製品価格
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (7月30-31日開催分)
- 22日 独8月製造業PMI速報値、独8月サービス業PMI速報値
ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月サービス業PMI速報値
英8月製造業PMI速報値、英8月サービス業PMI速報値
米新規失業保険申請件数
米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値
米7月中古住宅販売件数
ジャクソンホール会議 (24日まで)
- 23日 NZ第2四半期小売売上高
日本7月消費者物価指数
カナダ6月小売売上高
米7月新築住宅販売件数
衆参両院が閉会中審査 (植田日銀総裁や鈴木財務相から意見聴取)
パウエルFRB議長講演 (ジャクソンホール会議)

【前回のレビュー】米国の景気減速懸念を受けて、ドル円、日経平均、米国株は急落したものの、パニック的な売りが落ち着くと戻り歩調で推移している。米経済指標の動向次第ながら、ドル円は底堅く、もみ合いながら上値を追う展開が見込まれるとした。

【ドル円は横ばい圏での推移が続く】

12日以降のドル円は146～148円台で方向感なくもみ合いが続いた。その後、15日のNY市場で7月の米小売売上高や新規失業保険申請件数が強い結果となり、米国の景気や雇用情勢への警戒感が後退してドル買いが進んで149円台前半まで上昇した。

13日発表の7月米生産者物価指数は、前月比+0.1%、前年比+2.2%とな

り、いずれも市場予想や前回を下回った。コア前月比は変わらず、前年比は+2.4%となり、こちらも市場予想や前回を下回った。この日はロンドン市場で148円をうかがう展開だったものの、米生産者物価指数が市場予想から下振れしたことで、ドル売りの動きとなり、146.60台まで下落した。

14日の7月の米消費者物価指数はおおむね市場予想の範囲内となり、インフレの減速傾向が示された。総合の前月比は+0.2%となり、市場予想の+0.2%と同水準、前年比は+2.9%と市場予想の+3.0%を下回った。コア前月比は+0.2%となり、市場予想と同水準となった。コア前年比は+3.2%となり、市場予想と同水準となった。発表後は146円台半ばから147円台半ばのレンジで上下に振幅した。

15日には7月の米小売売上高が前月比+1.0%、コア前月比は+0.4%といずれも市場予想を上回った。米新規失業保険申請件数が22.7万件となり、市場予想や前回を下回る強い結果となった。強い米経済指標を受けて、ドル円は一連の指標発表前の147円台前半から一気に149円台前半まで上昇した。

9日に発表された米商品先物取引委員会（CFTC）建玉明細によると、8月6日時点の大口投機玉の円の売り越し枚数は前週の7万3460枚から1万1354枚に大幅に減少した。直近のピークだった7月2日時点の18万4223枚から急激に減少して、売り越しがほぼ解消した格好となった。8月5日にドル円は141.70近辺まで急激に下落したが、この背景にあるのは純粋な円買いの動きというよりは、円キャリー取引の巻き戻し（円売りポジションの解消）だった可能性が高い。円売りポジションの解消が一巡したことで、ドル円の下げも一服して、上昇に転じている。

19日の週は、22-24日に開催される米カンザスシティ連銀主催で開催される経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」が最大の注目材料となる。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長による講演は、今後のFRBの金融政策を示唆する手掛かりとなるため注目を集める。最近の経済指標の動向などを受けて、今後の金融政策にどのような見解を示すのかが注目される。特に9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げ、利下げ幅がどの程度か、といったことに関するヒントが出てくるかが注目される。

米消費者物価指数の落ち着きや15日に米小売売上高などが強い結果を見せたことで、9月のFOMCでの0.50%利下げ観測は大きく後退している。今後も米経済指標の動向に左右されやすい展開ながら、ドル円は底堅く、もみ合いながら緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、146.00~153.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、19日に日本6月機械受注、米7月景気先行指数、21日に日本7月貿易収支、22日に米新規失業保険申請件数、米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値、米7月中古住宅販売件数、23日に日本7月消費者物価指数、米7月新築住宅販売件数などがある。

【ユーロドルは緩やかに上値を追う展開か】

13日は7月の米生産者物価指数が弱い結果となったことで、ユーロ買いドル売りの動きに傾き、1.1000ドルの節目まで一時上昇した。14日には7月の米消費者物価指数が市場予想を下回ってインフレ減速が示されたことで、一段とユーロ買いとなり、1.1040台まで上値を伸ばした。ただ、上ヒゲのローソク足となり、15日はドル買いの動きから伸び悩みを見せた。

ユーロドルはそのまま下げが続くような崩れは見せておらず、1.09台で底堅く推移している。こうした中、緩やかに上値を追う展開になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900~1.1100ドル。

ポンドドルは13日に弱い米生産者物価指数を受けて、1.2870台まで大きく上値を伸ばした。その後は高値圏でもみ合いから一段高となっている。5日移動平均線にサポートされて、堅調な推移が続くとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2750~1.2950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、19日に英8月ライトムーブ住宅価格、20日にNZ7月貿易収支、中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年 5年）、独7月生産者物価指数、ユーロ圏6月経常収支、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値、カナダ7月消費者物価指数、22日に独8月製造業PMI速報値、独8月サービス業PMI速報値、ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月サービス業PMI速報値、英8月製造業PMI速報値、英8月サービス業PMI速報値、23日にNZ第2四半期小売売上高、カナダ6月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。